

目標および成果指標の設定 記入様式

活動団体名： やめスマ研究所

上位関連計画にみる地域の将来

- 地球温暖化対策推進法や政府の目標：2013年度比で2030年までに46%削減、2050年までにカーボンニュートラル達成
- 第5次エネルギー基本計画における、2030年に実現を目指す再エネの電源構成比率：22～24%、2030年に実現を目指す実質エネルギー効率（最終エネルギー消費量／実質GDP）35%減。
- 現在の人口：60926人、将来：52291人（2030年）、41696人（2045年）（日本の地域別将来推計人口（平成30年推計））
- 地域の総合計画に示された将来目標 現状：●●→目標：●●（●年）、現状：●●→目標：●●（●年）
- 地域の環境分野の上位計画の将来目標 現状：●●→目標：●●（●年） 現状：●●→目標：●●（●年）

②具体的な取組

※誰が何をするのか、主なものをお書きください。

- ・ワークショップ開催（仲間づくり）：やめスマ研究所
- ・ステークホルダー巻き込み：やめスマ研究所
- ・ステークホルダーMTG開催：やめスマ研究所
- ・地域コーディネーターとしての役割を担えるようになる：やめスマ研究所
- ・事務局として持続可能な状態にする：やめスマ研究所

③短期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2022年度末)	実績値 (2022年度末)	単位
環境	森林組合・JAの巻き込み	ステークホルダーMTGへの参加	0	2	2	団体
経済	自動車産業従事者の巻き込み	ステークホルダーMTGへの参加	0	2	3	社
社会	ワークショップ開催	ワークショップ開催回数	0	3	9	回
	ステークホルダー人数の増加	ステークホルダーリスト人数	6	15	30	人
	ステークホルダーMTG開催	ステークホルダーMTG開催回数	0	3	6	回

①ありたい未来

※どのような地域にしたいのか、何を引き継いでいきたいのかなど、具体的にお書きください

理想の未来：“ステキ”に“バケツヅケル”八女

→（環境）地域資源と共に在り輝く”ヒト”を育む八女

→（社会）チャレンジを応援できる”ヒト”を育む八女

→（経済）地域の経済をリードする”ヒト”を育む八女

④長期目標

分野	小項目	成果指標	現状値	目標値 (2023年度末)	目標年度 2030年度	目標値	単位
環境	分散型バイオマス発電事業実施	発電所の建設数	0	0	2030年度	2	機
	熱利用農業実施	熱利用農業実施者数	0	0	2030年度	15	農家
経済	持続可能なPFをつくる	PFの売上	0	50	2030年度	1,000	万円
	登録フェロー人数の増加	PF登録フェロー人数	1	5	2030年度	30	人
	EVシェア事業実施	年間利用者数	0	0	2030年度	1,000	人
社会	地域コーディネーターになる	地域のPFをつないだ回数	0	3	2030年度	20	団体
	地域課題解決ビジネスの創造	事業計画作成数	0	2	2030年度	15	
	ワークショップ開催	ワークショップ開催回数	0	10	2030年度	100	回
	ステークホルダー人数の増加	ステークホルダーリスト人数	6	40	2030年度	100	人

⑤短期指標が長期目標にどのように関わるのかお書きください

今年度は長期的に持続可能なPFをつくっていくための第一フェーズとして仲間づくりに注力していきます。具体的な活動としてワークショップ開催回数やステークホルダーMTG開催回数を短期の目標として掲げ、申請時に予定しているステークホルダーの方にお声がけしその方たちを巻き込みながら輪を広げていきます。ここで未来の社会を見据えて行動する仲間を増やします。この目標が達成された次のフェーズは地域に眠る資源や地域課題の洗い出しから地域課題解決型ビジネスの創造につなげると同時にやめスマ研究所自体が持続可能な状態になるためのスキームの構築をしていきます。この目標を追いながら活動をしていくことでありたい未来（社会）を目指しながらそこにたどり着くための地域課題を地域資源（環境）を用いたビジネス（経済）で解決することができ、そのサイクルを回し続けることで最終的に理想の未来にたどり着けると考えています。

※環境・経済・社会がどのように関係し合い、相互に高まっていくのか具体的にお書きください